

7月21日 朝の勉強会

テーマ
「救急外来シリーズ」O先生

【症例】40歳代、女性

【主訴】発熱・悪寒、動悸

【現病歴】

7月●日の19:00頃お風呂から出たら悪寒と動悸があり、39.7°Cの熱を認め、その後も発熱が続き翌日の17:30頃当院救急外来受診した

【症例】10歳代、男性

【主訴】両鼠径部痛・腋窩痛

【現病歴】

7月●日に、両鼠径部痛・腋窩痛で他院ER受診。ギランバレー疑われ、当院神経内科受診したが否定。内科新患外来受診となり、筋骨格系の痛みとして鎮痛薬処方され、数日は痛みが落ち着いていた。2週間後の0時頃から大腿の痛みが出現し始め、朝になり脱力も伴い救急要請した

バセドウ病+腎盂腎炎

バセドウ病+周期性四肢麻痺

問診を丁寧に。特に既往歴はピンポイントで聞かないと言ってくれないことも

病態が一元的に説明がつかない時は、プロブレムリストごとに再度鑑別を検討する

前医などで異常を指摘されなかったからと言って、メンタルと思いつままない

メンタルはあくまで除外診断

自分の意見はきちんと伝える